

令和6年度（下期）助成事業報告書

団体名	ぼくたちの哲学教室上映会実行委員会	設立年月	2024 年 4月
		団体人数	4 人
事業名	映画「ぼくたちの哲学教室」実行委員会&「わたしたちの哲学教室」ワークショップ		
実施日時 ・ 会場	2025 年 2 月 22 日(土)10～16 時 熊本市男女共同参画センターはあもにい	参加人数	70 人
活動内容・活動成果			
2023 年 6 月日本公開の映画「ぼくたちの哲学教室」上映会（午前・午後の 2 回）、上映会の間で熊本大学准教授である哲学者苦野一徳氏並びにゼミ生による「寛容とは何か」をテーマにした本質観取ワークショップを行った。 参加条件として、上映会については理解が深まるのは中学生以上と記しつつ年齢制限は設けなかった。ワークショップについては、上映会に参加の中学生以上とした。結果、上映会は小学生の参加もあり、ワークショップは開催一週間前に予約が埋まった。 「ぼくたちの哲学教室」は、宗派の違いによる抗争を繰り返しているアイルランドのベルファストにある小学校が舞台となっている。力では争いを止めることができないことを身をもって経験している校長が重きを置くのが、哲学の時間だ。歴史的背景はあれど、こども同士のごく自然なやり取りがそこには描かれている。 参加者から「自分の子供には意見を押し付けがちだが、こどもが感じていることを安心して出せるように自分のあり方や言葉を変えていきたい」「家族会議をしていきたい」といった感想が寄せられた。 また、一時間弱で編み上げた「寛容とは何か」は「分かりえぬ他者と出会い、共に生きていこうという意思を持って、その他者を受け入れること」となった。感想として「分からない暗闇を進んでいくうちに、小さな光が見えてくるようで充実した時間だった。 メンバーの年齢や経験などが様々で、違う視点や新たな考えが得られ、発見があった。」「初対面の方と深い話をしておもしろかった」といったものがあった。 一つの言葉に向き合いながら、共通のものを見出していく様子はまさに平和な空間であったと言える。哲学を通して、参加者ひとりひとりの心に種が蒔かれた企画となった。 日時：2025 年 2 月 22 日（土） 上映会 10:00～11:45 ワークショップ 12:30～13:45 上映会 14:15～16:00 講師：熊本大学准教授苦野一徳氏・苦野ゼミ生 9 名 内容： ・ 映画「ぼくたちの哲学教室」上映会 ・ 本質観取「寛容とは何か」ワークショップ 参加人数：上映会 90 名 ワークショップ 45 名 合計 135 名			

2025年2月22日開催
映画「ぼくたちの哲学教室」上映会&「わたしたちの哲学教室」ワークショップ
収支報告書

2025. 3. 1

【収入の部】

	項目	単価 (円)	数量	単位	計 (円)
1	資料代	500	136	人	68,000
2	弁当代 (参加者分)	700	14	人	9,800
3	助成 (熊本放送文化振興財団)	20,000	1	回	20,000
4	自己負担	145,431	1	回	145,431
合計					243,231

【支出の部】

	項目	単価 (円)	数量	単位	計 (円)
1	映画レンタル費	110,000	1	回	110,000
2	会場代	12,000	1	日	12,000
3	会場代 (2/17上映確認)	4,000	1	日	4,000
4	付属設備代	21,600	1	日	21,600
5	付属設備代 (2/17上映確認)	2,800	1	日	2,800
6	謝金 (苦野先生)	12,940	1	回	12,940
7	チラシ印刷代 (500枚)	2,880	1	束	2,880
8	オンライン手数料 (資料・弁当)	13,860	1	回	13,860
9	振込手数料 (資料・弁当)	210	1	回	210
10	弁当代 (スタッフ分)	10,200	1	回	10,200
11	振込手数料 (DVD)	550	1	回	550
12	DVD返送代	180	1	回	180
13	スタッフ交通費	25,000	1	回	25,000
14	事務手数料	25,000	1	回	25,000
15	雑費 (お茶、菓子、その他)	2,011	1	回	2,011
16	マイク&スピーカー	0	1	回	0
合計					243,231



ぼくたちの哲学教室

監督：ナーサ・ニ・キアナン、デクラン・マッグラ 出演：ケヴィン・マカリーヴィーとホーリークロス男子小学校の子どもたち



不安定で不透明な世界を生きる子どもたちとケヴィン校長の「対話」の授業。

© Soilsiú Films. Aisling Productions. Clin d'oeil films. Zadig Productions. MMXXI



映画上映会 &
ワークショップ



参加費
各プログラム
500円
(資料代)

2025 2.22 Sat

会場：熊本市男女共同参画センター
はあもにい2階 多目的ホール

各回先着
100名

①午前の部 10:00~11:45

②午後の部 14:15～16:00

参加対象：どなたでも

(理解が深まるのは中学生以上の内容です)

ワークショップ「わたしたちの哲学教室」

先着
45名

12:30~13:45

映画を鑑賞して、感じたこと・思ったことをもとに、「寛容とは何か」をテーマに哲学者・教育学者である
 苦野一徳先生と苦野ゼミ生のみならずと一緒に、「本質
 観取」(ものごとの本質を言葉にして編み上げていく哲学
 の思考法*)に取り組みます。*・苦野一徳著「親子で哲学対話」より
 参加対象：中学生以上の方、映画をご覧になる方

参加対象：中学生以上の方、映画をご覧になる方

ワークショップ講師

とまの いっとく
苔野 一徳 氏



哲学者・教育学者。熊本大学大学院教育学研究科准教授。早稲田大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士(教育学)。経済産業省「産業構造審議会」委員、熊本市教育委員のほか、全国の多くの自治体・学校等のアドバイザーを歴任。著書に『どのような教育が「よい」教育か』（講談社）、『勉強するのは何のため?』（日本評論社）、『教育の力』（講談社現代新書）、『自由』はいかに可能か（NHK出版）、『子どもの頃から哲学者』（大和書房）、『はじめての哲学的思考』（筑摩書房）、『「学校」をつくり直す』（河出新書）、『ほんとうの道徳』（トランスビュー）、『愛』（講談社現代新書）、『NHK100分DE名著 苦野一徳特別授業 ルソー「社会契約論」』（NHK出版）、『未来のきみを変える読書術』（筑摩書房）、『学問としての教育学』（日本評論社）、『「エミール」を読む』（岩波書店）、『親子で哲学対話』（大和書房）などがある。

んな映画？

人生は正解のない問いの連続　　考えて、考えて、歩む

北アイルランド、ホーリークロス男子小学校。ここでは「哲学」が主要科目になっている。威厳と愛嬌を兼ね備えたケヴィン校長は言う。「どんな意見にも価値がある」と。彼の教えのもと、子どもたちは異なる立場の意見に耳を傾けながら、自らの思考を整理し、言葉にしていく。授業に集中できない子や、喧嘩を繰り返す子には、先生たちが常に共感を示し、さりげなく対話を持ちかける。自らの内にある不安や怒り、衝動に気づき、コントロールすることが、生徒たちの身を守る何よりの武器となるとケヴィン校長は知っている。かつて暴力で問題解決を図ってきた後悔と挫折から、新たな憎しみの連鎖を生み出さないために、彼が導き出した1つの答えが哲学の授業なのだ。一時間をかけて「自分の言葉」を紡ぎだし、他者との対話続けることで、分断された社会で生き抜く力を身につけていく子供たちの姿を描いた映画。

主催：ぼくたちの哲学教室上映会実行委員会
共催：一般社団法人teamはちどり、JICA九州
お問合せ：〈Mail〉 info@teamhachidori.com 後援：熊本市教育委員会



お弁当のご予約、受け付けます！
(詳しくは申込フォームにてご確認ください)